

湯の嫌ひのは、瘦ッポチを曝しものにするのが辛いからだらう、だから温泉へ往くのにも、なるたけ人の往かない季節を狙つてゐる、自家の据風呂が損じてもすると、幾日も湯に入らないといふ厄介者だ、それを旅先などで、毎朝裸體にするのは可愛想ぢやないか。

冷水摩擦といふ奴は、公德に害のあるものだ、此春も四國のある宿屋で、早起の主人は手拭さげて洗面場へ往つた、すると先客があつて顔を洗つてゐる、此家は大きな構だか、どういふ譯か洗面處は狭い、一人だけより使はれない、主人は先客の濟むのを待つべく、楊子を啣へてその邊をブラ／＼してゐた、いつ迄待つても濟まない、先客は所謂冷水摩擦をやつてゐるのだ、それが、しかも御叮嚀と來てゐる、指の股から足の爪先迄もといふやり方だ、待つてゐるのを知つてゐるのだから、氣を利かして手早く切り上げさうなものだが、此忙しい世の中に、悠々とこんな事でもやらうといふ人の膽は違つたもので、一向平氣でゴシ／＼擦つてゐる、主人は唾液を口中一ぱい溜めて、不相變楊子を動かしてゐる、此時位齒を叮嚀に磨いたことは恐らく主人の一生中にあるまいと思つた、主人はまた、此時位冷水摩擦の迷惑を痛切に感じたことは無いと言つてゐる、若しあの場合、主人が一番汽車へ乗るのであつたらどうだらう、主人が商人なら他人の冷水摩擦のために商機を逸して鉅萬の富を得損なふたかも知れない、莫大の損をしたかも知れない、主人が官吏なら、御用を缺いて譴責を喰つたかも知れない、可なり

重大な結果を生じないとも限らない、必竟するにだ、冷水摩擦なるものは、よほどの暇人か、湯錢や洗濯代等を惜む經濟家のする事であらう、と言つたとて、何も今やつてゐる人に廢めるといふのでもなく、是からやらうといふ人に、およしなさいと言ふのでもない、たゞあまり効能を書き立てられるので、ちよつと反抗して見た迄のことさ。

松江にて

廣い唱歌室と、雨天體操場が實習室になつてゐる。室の四隅には、臺の上に靜物のモデルが置かれてある。提灯にマッチ、洋書に扇子、和書の重ねたもの、植木鉢に水差、ビール罎に林檎なむかゞ載つてゐる、ビールに林檎は夏向には持つて來いとも思つてか、此處が一番繁昌してゐる。

小學校のことだから、椅子が小さい、尋常一年のなんと來たら、おもちやのやうなものだ、それに大の男がウンと腰を叩して、一生懸命にモデルを睨めつけてゐる。一方に大きな畫架を据えて、堂々と反身になつて場所塞げをしてゐる先生もあれば、低い机にかぢりついて、畫面に顔を押つけ、首を縮めて小さくなつてゐる内氣らしい人も居る、此暑いのに夏羽織を着て、謹ましげに畫いてゐる若い人、首を曲げ眼を細くして、頻りに調子を見てゐる神秘的な人、一生懸命わき見もしない人もあれば、睡たさうな顔に欠伸を噛み殺してゐる中年の髯男も居る。